

# クラス替えによる生徒の心理的安全性の変化

潜在差得点モデルを用いた検討

今城志保（リクルートマネジメントソリューションズ組織行動研究所）

キーワード：心理的安全性、専門学校生、潜在差得点モデル

## 背景

本研究では、クラス替えの前後の専門学校生の心理的安全性の評価データを用いて、クラスという社会的環境が生徒の心理的安全性認知に影響を与えるかを検討する。

心理的安全性は、「チームにおいて、他のメンバーが自分が発言することを恥じたり、拒絶したり、罰をあたえるようなことをしないという確信をもっている状態であり、チームは対人リスクをとるのに安全な場所であるとの信念がメンバー間で共有された状態」と定義されている(Edmondson, 1999)。組織行動の文脈においてエンゲージメントや学習行動などへの望ましい影響が報告されており(Frazier, 2017)、注目を集めている。心理的安全性は集団レベルの概念であるが、測定に際しては、集団メンバーの質問紙への回答結果の平均値が一般に用いられる。ただ、個人と集団レベル間の関係性についての詳細な検討はあまり行われていない。

クラス替えで所属集団は変わるため、生徒の心理的安全性の認知が変化することは当然のように思われる。しかし、例えばポジティブな認知傾向など、個人差の影響が無視できない。つまり、どのようなクラスに所属しても心理的安全性を高く認知する、あるいは低く認知する個人がいる可能性がある。そこで本研究の目的1として、心理的安全性認知の個人差の影響を取り除いたうえで、クラス替えによる生徒の変化を、潜在差得点モデル(McArdle, 2009)を用いて探索的に検討する。また目的2として、クラスの心理的安全性が高いほど、そのクラスの生徒の心理的安全性はポジティブな方向により大きく変化するかを検討する。これによって、クラスレベルの心理的安全性が個人に及ぼすことを検証する

## 方法

専門学校の生徒を対象に2時点で調査を実施した(T1 2020年7~8月 9447名 回収率72.3%; T2 2021年11~12月 5895名 回収率54.4%)。T1T2のいずれも心理的安全性の回答があった4066名のうち、1クラスあたりの回答数10名以上でクラス替えの有の2763名(168クラス)を使用。

心理的安全性はEdmondson(1999)を参考に、「職場では」を「クラスでは」に変えて使用した(6件法,  $\alpha=0.72$ )。クラスの生徒の平均値をクラス得点として、上位3/1(905名)を高群(以下 psH)、下位3/1(911名)を低群(以下 psL)とした。

## 結果と考察

図1が、2時点の心理的安全性の潜在差をモデル化したものである。心理的安全性の認知に影響する可能性のある個人差として、性別と成績をモデルに加えた。

2時点で心理的安全性認知の平均を算出した結果は有意に異なっており(T1, 4.36, T2, 3.65,  $p<.001$ )、両者の相関は0.34( $p<.001$ )であった。一方、潜在差得点の平均は有意な正の値で、T1からT2で生徒の心理的安全性は上昇したことが分かった。レベルから差得点へのパスは有意な負の値となり、レベルが高い生徒ほど差得点小さくなった。このパスは、主に天井効果や平均への回帰といった統計的な要因の影響を示すと考えられるが、これを統制した結果、算術平均と

異なる結果となった。

次に psH と psL の違いに着目する。2群間で差得点の平均に有意差はなく、心理的安全性が高いクラスにいる生徒ほど得点の上昇が大きいということはなかった。性別や成績からのパスは有意ではなく、差得点には影響していなかった。また、psHのレベルの平均がpsLより有意に高かったことから、心理的安全性の高いクラスには心理的安全性認知レベルの高い生徒が多い傾向があることがわかる。これはT2時点のクラスの心理的安全性が、そのクラスに属する生徒のレベルに影響を受けることを示唆するものである。

レベルから差得点へのパスは、psHでpsLに比べて有意に高くなっていった。平均への回帰や天井効果であれば、クラスの心理的安全性によってパスが異なるとは考えにくい。心理的安全性の認知は、元のレベルが高いほど低下しやすいが、クラスの心理的安全性が高い場合にはその程度は抑えられたと考えられる。確認のために、T1の心理的安全性認知をX軸、T2-T1をY軸として散布図を描いたものが図2である。psLに比べてpsHでは、特にT1の心理的安全性が高かった生徒がT2で低くなる傾向が抑えられていることがわかる。今後は、個人とクラスレベルの相互作用の特徴などを検討し、心理的安全性を高めるためのヒントを得たい。

図1 心理的安全性認知の潜在差得点モデル

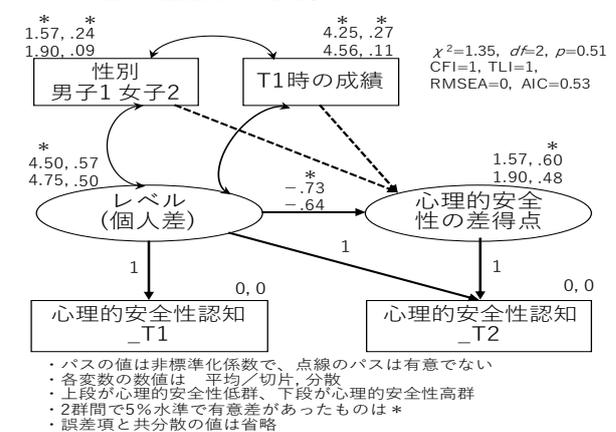


図2 心理的安全性認知の変化

